

Z-KAI  
増進会出版社

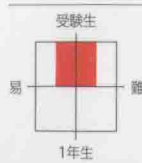


速攻Z会

# 英文法・ 語法 10日間

増進会指導部編

10日間で200の「盲点」を速攻チェック!!  
受験生がひっきりやすいポイント  
出題官の格好の狙い目!



---

**速攻Z会**  
**英文法・語法 10日間**

初版第1刷発行 平成11年11月1日

初版第8刷発行 平成13年12月1日

編者 **増進会指導部**  
発行者 **藤井史昭**  
発行所 **株式会社 増進会出版社**  
ホームページ <http://www.zkai.co.jp/>  
編集人 **石原 明**  
企画編集・発売 **株式会社 Z会出版**  
〒411-0944 静岡県駿東郡長泉町竹原383-9  
tel.0559-73-7117  
装丁 **早瀬芳文**  
印刷・製本 **図書印刷**

定価は表紙に表示してあります  
乱丁・落丁はお取り替えいたしません  
ISBN4-87915-618-3 C7082

---

# 速攻Z会

## 英文法・語法 10日間

江苏工业学院图书馆  
藏书章



## ■ はじめに

「速攻Z会シリーズ」は、短期間で各分野の仕上げをしたい、最終的に見落ししがちな点をチェックしたい、という受験生のために作成しました。

日々の学習の丹念な積み上げが真の実力となって身につくのは自明のことです。しかしその過程で、まさに今つまづいているところをいち早くのりこえることが、次のステップにつながるという場合があります。この「速攻Z会シリーズ」はそういうときに力を発揮します。また、受験を前にして、どこからどのように学習を始めたらいいのか混乱している諸君に、短時間でなすべきことの道案内ができるシリーズでもあります。

ただし、「短期間」という言葉に伴う「安易さ」は、このシリーズとは無縁です。骨格を押さえて、ぎりぎりまで説明を凝縮し、落とせないポイントをまとめてあるからです。ページ数は少ない書籍ですが、もっとも効果的に各分野の要点・盲点を押さえられるように工夫しています。

基本は理解しているのにいま一つ成果に結びつかない、という状況打開のために、ぜひ「小粒でピリリと辛い」このシリーズを活用してください。

「速攻Z会シリーズ」が君たちの力になり、希望が叶うことを心から祈っています。

### 英文法・語法10日間

「速攻Z会シリーズ」の仲間として、このたび、「英文法・語法10日間」を発刊することになりました。上述の趣旨に基づき、大学入試で繰り返し問われる英文法・語法問題を、標準モデルとして10日間で仕上げられるように整理しました。その際、編集の指針としたのは次の二つです。

- 1) 受験生が陥りがちな誤りに着眼し、それを「盲点」という形で示しました。これは言い換えれば、入試出題官が好む「出題の狙い目」でもあり、結果的には「頻出問題」でもあります。これらを、正誤の例文を対比表示するというスタイルで、最新の入試問題とセットで掲載しました。
- 2) これを10日間で仕上げられるように、1日20個、計200項目に絞り込みました。すなわち、網羅には及ばないが、最大公約数としてぜひ押さえておくべき必須項目のみを「厳選」したということです。

最後になりましたが、執筆は風早 寛先生に、native checkはJohn Cahill先生にお願いしました。この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

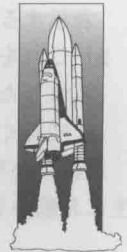
増進会指導部

■ もくじ

|      | 単元名      | p  | 1回目 | チェック | 2回目 | チェック |
|------|----------|----|-----|------|-----|------|
| 第1日  | 文型       | 6  | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第2日  | 仮定法      | 14 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第3日  | 接続詞      | 24 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第4日  | 準動詞 (1)  | 32 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第5日  | 準動詞 (2)  | 40 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第6日  | 時制と助動詞   | 50 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第7日  | 関係代名詞と譲歩 | 58 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第8日  | 代名詞と名詞   | 66 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第9日  | 比較と形容詞   | 74 | 月 日 |      | 月 日 |      |
| 第10日 | その他      | 82 | 月 日 |      | 月 日 |      |

副読本の話題・前文題

「副読本の話題・前文題」は、この単元で学習する文法事項に関連する副読本や前文題を紹介しています。副読本は、教科書の本文とは別に用意された、より詳しく説明した文章や、関連する話題の文章です。前文題は、本文の冒頭に載せられる、本文の内容を予告する短い文章です。副読本や前文題は、本文の理解を深め、学習の興味を高めるのに役立ちます。



## ■ 本書の効果的利用法

### ● 本書の構成

全10章(=10日)構成で、1日20ずつ、計200の「盲点」を掲載してあります。左ページが盲点、右ページが各盲点に対応する最新の入試問題、という見開き構成です。

#### 左ページ

「盲点」→受験生の皆さんが陥りやすい典型的な誤りを×、○二つの例文を対比させる形で示してあります。

#### 右ページ

「問題」→難関大学よりも、むしろごく標準的な中堅レベルの大学に照準を合わせ、主に最新3カ年の問題から厳選しました。

「補充問題」→盲点によっては、類題を用意してあります。

「解答・訳」→問題の下の欄外に掲載してあります。左ページを読めば大体わかるはずなので、解説は省略しました。問題文に和文のないものは、訳をつけてあります。

### ● 本書の効果的利用法

#### 【ある程度自信のある人／最終チェックに利用する人】

☞左ページの盲点を見ずに、実力テストのつもりで順番に問題を解いていきましょう。すぐ下の解答でチェックし、間違えた問題については、盲点で確認してください。

#### 【まだあまり自信のない人／夏休みなどに利用する人】

☞まず左ページの盲点を先に読んでから、問題に取り組んでください。間違えた問題については、再度、盲点を読み直し、必要に応じて、辞書や詳しい参考書で用法を確認しておきましょう。

なお、本書は標準10日で仕上げられるような章構成・問題量に設計してありますが、すべて見開き完結ですので、ご自分の現在の英語力、学習ペースに合わせて柔軟に学習計画を組んでくださって結構です。十分消化し切れていないと感じた場合は、何度でも繰り返し学習をするとよいでしょう。

## 第1日 文型

## 盲点 01 前置詞を付けてはいけない! よく狙われる他動詞

**頻出** attend (に出席する), discuss (を議論する), approach (に近づく), marry (と結婚する), resemble (に似ている) など

一方、自動詞の代表は, apologize, complain, arrive, talk など.

(×) They **discussed about** the problem.

(○) They **discussed** the problem. (彼らはその問題を議論した.)

## 盲点 02 第2文型でよく狙われる動詞

‘主語＋動詞＋形容詞’の形容詞を副詞にしないこと.

**頻出** look, feel, seem, appear, sound, taste, smell, keep, remain, stay, become, get, grow, come, go, turn など

(×) His dream has **come truly**.

(○) His dream has **come true**. (彼の夢は実現した.)

## 盲点 03 ‘名詞＋名詞’型の第4文型にはならない動詞

**頻出** explain, apologize, complain, inform, hope, mention, say など → 「誰に」, あるいは, 「何を」の前に前置詞が必要.

(×) She **informed him the accident**.

(○) She **informed him of the accident**.

(彼女はその事故のことを彼に知らせた.)

## 盲点 04 第4文型で注意すべき動詞

受動態で ‘be 動詞＋過去分詞’の後ろに名詞がある場合、能動態では第4文型だったと考えられる.

**頻出** save, spare, grant など

(×) Going by train will **help** you ten dollars.

(○) Going by train will **save** you ten dollars.

(列車で行けば、あなたは10ドル節約できる.)

## 盲点 05 let の後ろは原形. to 不定詞ではない

‘let＋人＋原形’で「人に…させる」. 許可を意味する.

(×) Please **let me to know** it.

(○) Please **let me know** it. (そのことを私に知らせてください.)

空所に入れるのに最適なものを選び (以下、指示がなくてもわかるであろうものは指示文は省略してある)。

- 01 We ( ) air pollution.  
 1. agreed to      2. argued with      3. discussed about  
 4. spoke to      5. talked about (関西学院大)

- 02 Though they had a heated debate, I kept ( ) during a meeting.  
 1. quiet      2. quietly      3. silently      4. talkative (同志社大)

- 03 Will you please ( )?  
 1. explain me it      2. explain it me  
 3. explain to me it      4. explain it to me (福岡工業大)

- 04 それぞれの空所に同じ語を入れよ。  
 1. 彼女は奨学金をもらった。  
 She was ( ) a scholarship.  
 2. 子供は当然正直なものだと彼らは思っている。  
 They take it for ( ) that children are honest. (専修大)

- 05 Please let me ( ) when you'll get to Green Park.  
 1. know      2. to know      3. knowing      4. known (名城大)

- 補充問題 02 These flowers really smell ( ).  
 1. sweet      2. sweeten      3. sweetly      4. sweetness (同志社大)

- 補充問題 03 間違っている文を一つ選べ。  
 1. I said it to her.      2. I told him about it.  
 3. I mentioned it to her.      4. I explained him about it. (立教大)

- 補充問題 05 日本語の意味を表すように並べ換えよ。  
 ちょっとそれを見せてくださいませんか。  
 Will you kindly (a / at / have / it / let / look / me)? (山形大)

### 解答・訳

01 5 私たちは大気汚染について話した。 02 1 彼らは白熱した議論をしたが、私は会議中黙っていた。 03 4 私にそれを説明してくださいませんか。 04 granted 05 1 グリーンパークにいつ到着するのか私に知らせてください。

補充 02 1 これらの花は本当によい香りがする。 補充 03 4 補充 05 let me have a look at it

盲点 06 make の後ろも原形、to 不定詞ではない

‘make + A + 原形’で「A(人)に[を]…させる」, 強制を意味する。  
‘目的語のA’と原形不定詞の間には「Aが…する」の関係が成り立っている。  
疑問詞 what が主語になることも多い。

- (X) What **made her to go out**?  
(O) What **made her go out**? (なぜ彼女は出て行ったのか.)

盲点 07 make oneself の後ろは過去分詞

‘make + oneself + 過去分詞’で「自分自身を…してもらう」。

**頻出** make oneself understood 「自分(の言うこと)を理解してもらう」,  
make oneself heard 「自分(の言うこと)を聞いてもらう」

- (X) She couldn't **make herself hear** above the cheers.  
(O) She couldn't **make herself heard** above the cheers.  
(歓声にかき消されて彼女の声は聞こえなかった.)

盲点 08 have の後ろが過去分詞のときの意味は?

‘have + A + 過去分詞’で「～を…してもらう(使役), ～を…される(被害)」。  
Aと過去分詞の間には、受け身の関係が成り立っている。

- (X) I must **have this telephone fix** at once.  
(O) I must **have this telephone fixed** at once.  
(この電話をすぐに修理してもらわなければならない.)

盲点 09 have の後ろが原形のときの意味は?

‘have + A + 原形’で「A(人)に[を]…してもらう」, 使役の意味。

- (X) She **had the porter carried** her baggage.  
(O) She **had the porter carry** her baggage.  
(彼女はボーイに荷物を運んでもらった.)

盲点 10 使役動詞 get の後ろは to 不定詞、原形ではない

‘get + A + to do’で「A(人)に[を]…してもらう」, get が使役の意味で使われる場合、他の使役動詞とは異なり、A(目的語)の後ろに to 不定詞がくる点に注意。

- (X) You had better **get your friend help** you.  
(O) You had better **get your friend to help** you.  
(友だちに頼んで助力してもらいなさい.)

06 Read the instructions carefully to ( ) the device work properly.

1. access      2. bring      3. make      4. possess (明星大)

07 She managed to make herself ( ) in English.

1. understand      2. to understand  
3. understanding      4. understood (杏林大)

08 "Do you have anything ( ) for Sunday?"

"Nothing in particular." (上智大)

1. plan      2. to plan      3. of plan      4. planned      5. planning

09 I'll have my son ( ) you up at the station.

1. pick      2. to pick      3. being picked      4. having picked

(東京経済大)

10 I got him ( ) me when I moved the furniture.

1. help      2. helped      3. to help      4. to helping (徳高文理大)

● 補充問題 06 日本文の意味を表すように並べ換えよ。

どうしてそのようなそをお母様についたのですか。

(made / to / a lie / what / tell / you / such) your mother? (藤女子大)

● 補充問題 09 私はあなたにその研究に専念してもらいたいです。

I would (study / yourself / to / you / have / the / apply). (中央大)

## 解答・訳

06 3 機械が適切に動くように、説明書をよく読んでください。 07 4 彼女の英語はどうかこうにか通じた。 08 4 「今度の日曜日は何かご予定がありますか。」「特にありません。」 09 1 息子に、あなたを迎えに駅へ車で行かせましょう。 10 3 家具を移動する時に彼に手伝ってもらった。

補充06 What made you tell such a lie to 補充09 have you apply yourself to the study

盲点 11 get の後ろが過去分詞のときの意味は？

‘get + A + 過去分詞’ は「A(物・こと)を…される」。

- (×) We are going to **get** this machine **to check** carefully.
- (○) We are going to **get** this machine **checked** carefully.  
(この機械を念入りに調べてもらおう.)

盲点 12 知覚動詞の後ろが原形の場合の意味は？

see, hear, feel, watchなどを知覚動詞と呼ぶ。‘知覚動詞 + A(目的語) + 原形 [...ing]’ で「Aが…する[…している]のを聞く[見る…]」。

- (×) I **heard** them **to go** out.
- (○) I **heard** them **go** out. (彼らが出ていく音が聞こえた.)

盲点 13 We hear it said that ... という形

次のように目的語の後ろに過去分詞がくると、「Aが…されるのを聞く[見る…]」という意味になる。

- (×) We **hear it say that** a rolling stone gathers no moss.
- (○) We **hear it said that** a rolling stone gathers no moss.  
(「転がる石にはコケがつかない」と人が言うのを耳にする.)

盲点 14 ‘S + V + O + to 不定詞’ の型

**頻出** この文型では、目的語と不定詞の間にS + V関係が成り立つ。

- (×) He **told** them **keeping** silent while they were in the hall.
- (○) He **told** them **to keep** silent while they were in the hall.  
(彼は、ホールにいる間は静かにしているよう彼らに言った.)

盲点 15 ‘S + V + O + to 不定詞’ が受動態になると？

SVOの部分を受動態になるだけで、to不定詞以下は変わらない。

**頻出** S is expected to do ... 「Sは…することを期待される」

- (×) We **were ordered follow** him.
- (○) We **were ordered to follow** him.  
(我々は彼に従うようにと命じられた.)

- 11 My brother was going to drive his car to church today, but he couldn't ( ) it started.  
1. put      2. set      3. take      4. get (東京電機大)
- 12 The American said he had seen nine presidents ( ).  
1. came and went      2. come and go  
3. coming and going      4. had come and gone (青山学院大)
- 13 We often hear it ( ) that a child can easily adjust to changes in its environment.  
1. said      2. saying      3. say      4. to say (学習院大)
- 14 He never ( ) his personal problems to affect his performance.  
1. achieves      2. allows      3. gives      4. lets      5. makes (立教大)
- 15 The students in the Music Department ( ) to play at least one musical instrument.  
1. enjoy      2. look forward      3. are devoted      4. are expected (慶應大)

● **補充問題 12** 日本文の意味を表すように並べ換えよ。

テレビの音がうるさくて、父が入ってきたのが聞こえなかった。

The noise of the TV (come / father / from / hearing / in / me / my / prevented). (龍谷大)

● **補充問題 14** (death / father's / me / my / caused / sudden / to) give up studying abroad. (東海大)

**解答・訳**

11 4 兄は今日教会まで車で行く予定だったが、車が動かなかった。 12 2 そのアメリカ人は9代の大統領が就任しては引退するのを見てきたと言った。 13 1 子供は環境の変化に慣れるのが早いということをよく聞く。 14 2 彼は個人的な問題を演技に影響させるようなことは決してない。 15 4 音楽学部の学生は少なくとも一つの楽器を演奏できることを要求される。 **補充 12** prevented me from hearing my father come in **補充 14** My father's sudden death caused me to 父親が突然他界したので、私は留学をあきらめた。

盲点 16 'S would like A to do ...' の形になると？

意味は「SはA(目的語)に…してもらいたい」。これも「S+V+O+to不定詞」型のバリエーションである。

(X) I would like they feel satisfied.

(O) I would like them to feel satisfied. (彼らに満足してもらいたい.)

盲点 17 keep +三変化！

**頻出** 'keep + A + ...ing', 'keep + A + 過去分詞', 'keep + A + 形容詞'

いずれも、「A(目的語)を…のままにしておく」。

(X) Too much coffee kept I was awake last night.

(O) Too much coffee kept me awake last night.

(コーヒーを飲み過ぎたために、昨夜は眠れなかった.)

盲点 18 'leave + A + 形容詞' の意味は？

「A(目的語)を…のままにしておく」。放任を意味する。

(X) She left the open door.

(O) She left the door open. (彼女はドアを開けっ放しにした.)

盲点 19 make +二変化！

**頻出** 'make + A + 過去分詞', 'make + A + 形容詞' いずれも、「A

(目的語)を…にさせる」。

(X) The mere thought of it she made happy.

(O) The mere thought of it made her happy.

(彼女はそのことを考えただけでうれしくなった.)

盲点 20 leave の後ろが分詞になると？

'leave + A + ...ing', 'leave + A + 過去分詞' で「A(目的語)を…のままにしておく」。=放任

(X) Don't leave your baby cries.

(O) Don't leave your baby crying.

(赤ちゃんが泣いているのを放っておいてはいけない.)

- 16 He ( ) me what happened.  
 1. would like you tell      2. would like you telling  
 3. would like you to tell      4. would like you told (東海大)
- 17 The driver kept the engine ( ) while we waited.  
 1. run      2. to run      3. running      4. ran (日本大)
- 18 Please ( ) me alone. I have so many things on my mind now.  
 1. keep      2. leave      3. make      4. get (名城大)
- 19 日本文の意味を表すように、与えられた語で始まる一語を空所に入れよ。  
 彼はいつもお客をくつろがせるよう気を配っている。  
 He always concerns himself with (m- ) his guests comfortable. (中央大)
- 20 Tom must have left the water ( ).  
 1. run      2. to run      3. ran      4. running (摂南大)

● 補充問題 19 犬を見ただけで彼女はこわがった。

The (a / dog / her / made / mere / of / sight) afraid. (立命館大)

● 補充問題 19 コンピュータの発達により膨大な量の情報を迅速に処理することが可能になった。

(huge amounts / has made / of information / it / the development of computers / possible / process / to) quite quickly. (甲南大)

### 解答・訳

16 3 彼はあなたに、何が起きたのかを私に話してほしいと思っている。 17 3 私たちが待っている間、運転手はエンジンをつけたままにしておいた。 18 2 私を放っておいてください。気にかかっていることがたくさんあるのです。 19 making 20 4 トムは水を出しっ放しにしていたにちがいない。 補充19 mere sight of a dog made her 補充19 The development of computers has made it possible to process huge amounts of information

## 第2日 仮定法

## 盲点 21 demand that ... 型の仮定法現在

例えば S demand that ... は, that 節の中に should を入れなければならない (英国用法). ただし, ‘仮定法現在’ といって should を省略して原形にすることも可能 (米国用法).

**頻出** demand, suggest, propose, desire, request, recommend, urge など

(×) She **demanded** that he **told** her the truth.

(×) She **demanded** that he **tells** her the truth.

(○) She **demanded** that he **tell** her the truth.

(彼女は彼に、本当のことを話してと言った.)

## 盲点 22 仮定法過去の基本形は大丈夫か？

If + S + V (過去形) ~, S + { would, should } + V (原形) ...  
 { could, might }

if 節を現在形にしたり, 帰結節で上記四つの助動詞を使わなかったり, といった公式違反をしないこと.

(×) If I were rich, I **will** help all the poor in the world.

(○) If I were rich, I **would** help all the poor in the world.

(もし私がお金持ちなら, 世界中の貧しい人々を助けてあげるのに.)

## 盲点 23 仮定法過去の倒置形

if 節に be 動詞や could, should, would などの助動詞がある時に限り, if を省いて主語と be 動詞 [助動詞] を倒置することができる.

(×) **If it not raining** right now, I would go for a walk.

(○) **Were it not raining** right now, I would go for a walk.

(もし今雨が降っていなければ, 散歩に出かけるのに.)

## 盲点 24 仮定法過去完了の基本形

If + S + V (過去完了形) ~, S + { would, should } + have 過去分詞...  
 { could, might }

if 節の中は過去完了形. 帰結節は ‘助動詞 + have done’ の形.

(×) If he **practiced** harder, he **might not have failed**.

(○) If he **had practiced** harder, he **might not have failed**.

(もしもっと練習をしていたら, 彼は失敗しなかつただろうに.)

- 21 He proposed that another meeting ( ) next week. (慶應大)  
 1. was held    2. be held    3. will be held    4. would be held
- 22 “Would you mind ( )?”  
 “No, not at all. I’d be happy to have company.”  
 1. to join you    2. joining you    3. my being joined  
 4. if I joined you    5. if I have joined you (上智大)
- 23 ( ) in your place, I would not forgive his betrayal.  
 1. I were    2. If were I    3. Were I    4. Were if I (北海学園大)
- 24 If you ( ) me the chance, I would have explained my plans in more detail.  
 1. would have given    2. would give  
 3. gave    4. had given (福岡大)

## 解答・訳

21 2 彼は来週もう一度会議を開こうと提案した。 22 4 「私も参加していいですか。」「ええ、どうぞ。私も仲間がいた方がうれしいです。」 23 3 もしも私があなたの立場ならば、彼の裏切りを許さないだろう。 24 4 あなたが私に機会を与えてくれたら、もっと詳しく計画を説明していたのに。